

令和3年度 施政方針
(衝 青 天)

(令和3年第1回定例会)
令和3年3月3日

川 島 町

それでは、議長のお許しをいただきましたので、本定例会においてご審議をいただきます諸案件に先立ちまして、令和3年度の町政経営に関する基本的な考え方を申し述べさせていただきます。

「勢衝青天攘臂躋 気穿白雲唾手征」

「青空をつきさす勢いで肘をまくって登り、白雲をつきぬける気力で手に唾して進む」これは、若き渋沢栄一が信州の内山峡で詠んだ漢詩の一節であります。逆境に負けることなく激動の時代を突き進んだ栄一の人生とも重なります。

先月から放映されているNHKの大河ドラマ、60作目の「青天を衝け」は、「日本資本主義の父」といわれた、深谷市出身の渋沢栄一を主人公にしたものです。渋沢は、2024年度に刷新される新一万円札の顔としても注目されており、約500もの企業を育てるとともに、約600の社会公共事業にも関わった人物でありました。

こんにち、渋沢栄一氏をここまでにされてきた深谷市をはじめ、関係者のご努力、熱意には頭が下がります。

幕末から明治へと、大きく時代が動く変革の時期を描いたこのドラマは、新型コロナウイルスがまん延し、閉塞感がただよう今の時代、そして、その後の時代とどこか相通じるところがあるように感じます。

私は、来年度もこのドラマのように、青天を衝くかのような気概と熱量を持って、川島町の未来を切り開いていく、そんな一年にしていく所存です。

(新型コロナウイルス感染症への対応)

国をあげての大事業となる、新型コロナウイルスワクチン接種事業は、先月から医療従事者への接種が始まりました。まだまだ不確定要素の大きいこの事業ですが、町民の皆様が安心してワクチン接種に臨めるよう、現在、鋭意、準備を進めておるところでございます。川島町民会館を集合接種会場にし、迅速かつ適切に実施できるよう必要な体制を構築してまいります。

(行政デジタル化の推進)

首相をトップとするデジタル庁は、本年9月に設置されます。デジタル社会の実現は、諸外国から後れを取っているとされるデジタル化を強力に推し進めるため、菅首相の肝いりの政策ともなっています。

町でも、町民の皆様の利便性の向上や職員の事務の効率化を図るために、デジタル化の推進は避けて通れないものとなっています。そのため、令和3年度から政策推進課内に「DX（デジタルトランスフォーメーション）推進室（仮称）」を設置いたします。今後も、国等の動向を注視しながら、スピード感を持って推進し、町民の皆様がデジタル化の恩恵を受けられるようにしてまいります。

また、デジタル化の推進には、何といたってもマイナンバーカードの普及が欠かせません。国においても、2年後にはほとんどの方が保有できるよう目標を定めております。来年度はこれまで以上にカードの交付を強力に推進するとともに、その利用促進を図ってまいります。

(安心・安全な暮らしをまもる)

一昨年、日本列島に大きな被害をもたらした台風19号の教訓を基に、町では地域防災計画の見直しや新たな洪水ハザードマップの作成など、様々な防災対策を推進しております。しかし、河川に囲まれた本町では、ひとたび、堤防が決壊したときは町内全域が浸水してしまうことから、町外への避難を進めておりますが、一時的な緊急避難場所として、来年度から高台避難場所の整備を図ってまいります。

また、日々の暮らしを衛生面で支える廃棄物処理事業につきましては、昨年、埼玉中部資源循環組合が解散したのち、新たなごみ処理施設の整備が喫緊の課題となっております。来年度も引き続き、調査研究を進めるとともに、町民の皆様の意識や理解を深めてまいります。

来年度も、安心・安全な暮らしをまもるため、国や県、関係機関への要望等を精力的に働きかけてまいります。

(人と人をつなぐ)

平成30年に小学校を統廃合して以来、廃止した学校の利活用について検討をしてまいりましたが、来年度は新たなつどいの場を創出するため、旧小学校を地域活動センターとして開設するための準備を進めてまいります。

また、引き続き、「かわじま未来塾」への支援を行うとともに、未来に向けた新しいコミュニケーションづくりを進めてまいります。

(稼ぐ地域をつくる)

町では令和元年度から地方創生推進交付金を活用し、平成の森公園のリニューアル整備を中心に来訪者の消費促進とリピーター化を図っておりますが、来年度は県の補助金を活用し、地域おこし協力隊を受け入れ、「稼ぐ仕組みづくり」を推進する地域商社の設立を図ります。

また、圏央道川島インターチェンジ南側地区においては、引き続き、県や関係機関との調整を図りながら、川島の輝く未来に向けたまちづくりを進めてまいります。

(はばたく人財をそだてる)

新型コロナウイルスの感染拡大により、今年度は学校も長期にわたって休校となるなど、大きな影響を受けました。本来であれば顔と顔、手と手を触れ合って成長していく場である学校運営を制限せざるを得なくなり、関係者の皆様は毎日、苦悩されたことと思います。そんな中でも、未来へはばたく人財を育てるために、来年度も「川島方式子ども学習支援システム」や「地域学校協働活動推進事業」などの諸事業を推進してまいります。

また、今後の町立保育園のあり方について、来年度から検討してまいります。

教育は町の礎であり、百年の計は人づくりにあると言っても過言ではありません。川島町の未来を切り拓く人財を育てるために、来年度も学校・家庭・地域が連携・協働して取り組んでまいります。

以上、来年度策定する第6次川島町総合振興計画の「まもる」「つなぐ」「つくる」「そだてる」の四つの柱に、ワクチン接種やデジタル化の推進といった「集中戦略」を加えた主要施策を申し上げました。

しかし、予算編成は、新型コロナウイルスによる税収の落ち込み等もあり、ことしも大変厳しいものとなりました。それでも、やらなければならないこと、手をつけておかなければならないことをしっかりと精査し、重点的に配分いたしました。

その結果、一般会計は69億3,500万円となり、前年度比2億1,100万円、率にして3.0%の減となりました。なお、これまで特別会計として計上していた学校給食費特別会計は、令和3年度から一般会計に編入しております。

特別会計は、国民健康保険特別会計が0.8%増の24億円、介護保険特別会計が0.2%増の18億円、後期高齢者医療特別会計が5.9%増の2億4,784万円、そして水道事業会計が10.2%減の7億1,729万8千円、下水道事業会計が12.2%減の10億4,245万1千円となりました。

なお、国民健康保険税及び介護保険料ですが、町民の皆様が特定健診や介護予防体操などへ積極的に参加し、医療費や介護事業費を抑えることができたおかげで、来年度から引き下げられる見込みとなりました。引き上げる市町村が多数を占める中、当町は引き下げることになります。町民の皆様の健康への取組に改めて感謝を申し上げます。

むすびに、未曾有の災害となった2011年の東日本大震災から、間もなく丸10年を迎えます。また、一昨年の台風19号から早や2年となります。改めて被災された方々に、心からお見舞い申し上げます。あの日あの時の記憶は今もなお、私たちの胸に刻まれています。私たちはこれからも、未来へ向けたこの記憶を財産として、しっかりと引き継いでいかなければなりません。町民の皆様、明るい未来のために、今、何を為すべきか心に刻み、来年度に掲げた諸事業を職員とともに一丸となって、全身全霊、一意専心で進めていく所存です。

町民の皆様並びに議員各位におかれましては、「未来に明るい希望が持てる魅力あふれる川島町」の実現に向け、引き続きご支援とご協力を賜りますようお願いを申し上げます。令和3年度の町政経営に対する方針とさせていただきます。

令和3年3月3日

川島町長 飯島和夫